

令和3年度第3回（仮称）新大田区生涯学習推進計画策定会議 議事要旨

日時 令和3年12月2日（木）午前10時から正午まで

場所 池上図書館 多目的室

出席者 名和田委員（会長）、遠山委員（副会長）、雨笠委員、笈川委員、大島委員、柏原委員、河合委員、倉持委員、白鳥委員、鈴木委員、松野委員、村上委員、和田委員（役職・50音順）

以下、敬称略。

1 開会

2 会長挨拶

【会長】

- ・ 皆様からの御協力により素案がまとまった。
- ・ パブリックコメントにかける前に、素案について議論いただくためにお集まりいただいた。

3 地域力推進部長挨拶

【地域力推進部長】

- ・ 前回の策定会議で活発な議論をいただき感謝申し上げます。
- ・ 基本理念に大田区らしさをとという御意見をいただき、内容を修正のうえ素案を策定した。
- ・ 12月16日からパブリックコメントを開始する。本日皆様に議論いただき、それを踏まえて修正のうえ、パブリックコメントに臨みたいと考えている。

4 傍聴人の入室

【会長】

- ・ 策定会議の公開について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 策定会議設置要綱第7条に「策定会議は、原則として公開する。ただし、1公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがある

ると認められる場合、2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 議案に個人情報が含まれている場合は、会長は会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議内容には、それらに該当する内容は入っていないと認識している。

- ・ 会議結果については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホームページに公開する。

【会長】

- ・ 本日予定されている議事について積極的に公開して、区民の方に聞いていただくべきもので、非公開とする理由はないと考えるが、よろしいか。
(異議の声なし)
- ・ 本日の会議は公開とする。
- ・ 傍聴人の方の案内をお願いする。

5 議題1 基本理念

【会長】

- ・ 傍聴人の皆さま、入室前に事務局から説明をさせていただいていると思うが、ルールをお守りいただき、進行に御協力いただきたい。
- ・ ただいまから第3回（仮称）生涯学習推進計画策定会議の議題に入る。議題1「基本理念」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ (素案「基本理念」に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、ご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
- ・ 本日配布されている素案の29ページに基本理念があるが、前回の資料では3案が示されていた。3案の中から選んでもよかったが、もう少し大田区らしさをとということで、事務局で検討し、この案が提示された。
- ・ 市民活動等に関わって、このような基本理念を定めるのに、時間がかかることを経験している。時間はかかるが、きちんと話し合ったほうが良いものができるという経験をしているので、この場で議論いただきたい。

【委員】

- ・ 「地域力で」という言葉が入ったので、大田区らしさが非常に伝わると思う。初めて聞くほかの地域の方にも関心を持ってもらえるような、大田区独自の言葉だと感じるので、この言葉が入ったのは非常に良いと思う。
- ・ 前回と比べて、非常にシンプルで一語一語がわかりやすく、かつそこに複数の意味を重ねていけるような言葉、表現になったと思う。「つながり」というところに、学びを介したつながり、人と人とのつながりと、学びと地域の活動ということのつながりと、様々な意味が込められている。「羽ばたく」という言葉に大田区ならではの個性と将来に向かってまちを作っていくという未来志向が浮かぶイメージかと思った。賛成する。
- ・ 「地域力」というのが、これまでのように自治会中心の地域力ということだと、自治会に関わらない区民にとっては、一緒にできないところがある。その現実を穴埋めできるようなことがあればよいと思う。

【会長】

- ・ 今の委員の御意見は、まさにこの基本理念はいいが、本当にやれるのかという、是非やってほしいという御意見だったと思う。基本理念としてはこれでよいが、この基本理念をきちんと実現するということだったと思う。
- ・ ほかに御意見はあるか。

【委員】

- ・ この理念について、「学びつながり地域力で羽ばたくまち」ということについて、サークル活動の中で、学んだりつながったりというのは理解されているが、サークル活動の仲間を見ると色々なところから通ってきていて、それぞれの地域の情報が雑談の中に出ている。このようなところで地域力を感じる。地域力が明確になり、とても良いと思った。大田区の中で団結していこうというような力強いタイトルとなったと思う。
- ・ この地域力という言葉は自治会、町会に限定されないと思う。自分は、この地域力を高める一つの活動をしているが、町会に入っていないなくても地域の人である。そこに住んでいること、地域に愛着を持つことが地域力だと思っている。地域は、その組織力を生かして、このような活動を支援していこうというのはあるが、受益者からする地域というのは、自分が住んで

いるところに愛着が持てることという解釈をすればよいと思っている。

- ・ 今まで議論してきたことについて、反映されていることがわかり良いと思った。基本理念ついて、随分簡単になったという印象を受けたが、皆さんのお話を聞いて自分が感じるのは、文章が長くなると詳しくなるが、印象がぼやける感じがする。このように簡潔に記されることで、むしろ読者に広がりを感じられるのでとても良いと思った。

【副会長】

- ・ 貧困や格差の問題、その結果として青少年や子どもの問題が課題となっているのは、つながりやコミュニティがなくなったことが大きな原因だと思う。この計画の所管は地域力推進課であり、地域力を推進するための一つの手段として生涯学習を議論している。この会議には、様々な立場の委員が参集し、それぞれの立場から発言をしているが、最終的には、この大田というまちをどうするか、生涯学習によって地域を良くするにはどうしたらよいか、ということ議論している。学びによって、もう一度つながりが戻り、それで地域が羽ばたいていけるように、草の根のつながりが生まれていけばよいのではないかと思う。時間をかけて地域力をもっと強くしていく、ということ表現するのにふさわしい基本理念だと思う。

【会長】

- ・ 副会長からもこのような御発言があったので、この案で良いと思う。
- ・ 「羽ばたく」という言葉についても、最近では平仮名で書くことが多いが、「羽田」の「羽」を使っていたことに工夫が見られた。
- ・ 非常に本日の議論に感銘を受けた。皆さま、「地域力」という言葉に非常に大きな意味を込めていて、やはり時間をかけて議論して良かったと感じた。基本理念は、この事務局案で了承ということで、よろしいか。

(異議なし)

【会長】

- ・ 非常に良い議論ができた。ぜひ事務局においても、この計画を推進するにあたって、今出た御意見を踏まえて進めていただきたい。これからパブリックコメントをいただくが、策定会議としては、素晴らしい基本理念ができたと感じている。

6 議題2 各基本目標と取組

【会長】

- ・ 議題2について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (素案「各基本目標と取組」に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、御意見、御質問があれば発言をお願いしたい。

【委員】

- ・ 団体として施設を借りるときの仕組みを変えてほしい。

【会長】

- ・ 生涯学習推進計画そのものというより、施設体系についての意見ということとで。

【委員】

- ・ 大田区には、文化振興プランに基づき、文化振興の推進をしている。生涯学習とも密接に関連した計画である。指定管理者として、アプリコや区民プラザ等の施設の管理をしている。本格的な文化芸術を推進することと合わせて、区民の文化活動の発表の場として整備している。施設の機能を維持するために費用がかかることもあり、他区の施設の動向を見ながら、できるだけ区民の本格的な発表の場を確保するため、区と調整のうえ、金額の設定をしている。
- ・ 発表の場所が少ない。また、施設を使うときに音響設備について把握しているスタッフが常駐していないなど、不便に感じることが多い。
- ・ 各基本目標と取組という議題について、基本理念と基本目標（個人の学びの充実、学びを通じたつながり・活用の場の創出、地域の学びを支える環境整備）との関係がわかりやすく、3つのポイントがうまくまとまっていると感じた。取組例の中に、当協会で実施している事業も紹介してはどうか。

【事務局】

- ・ 取組の方向性を整理のうえ、追加する。

【委員】

- ・ 35 ページの文言について、「実行できていない層が一定数います」、「学びに参加できていない層を」という言葉があったのが気になった。学びに参加できていないという課題を抱えている方を表すときに「層」という分析的な表現は乱暴に感じるので、「区民の方」、「方々」などと表現を修正することを提案する。

【事務局】

- ・ 文言を修正する。

【委員】

- ・ 35 ページ 1-2 の①について、内容としては障がいを持つ方や外国人の方など、学習に参加したいけどなかなか難しかったり、支援が必要だったりという方向けの学びの機会の提供ということだと思うが、「誰もが自分らしく暮らすための学びの充実」という表現をされると、少し意味が伝わりづらくなるかと思う。もちろん生涯を持つ人も持たない人も、様々な立場の人も、自分らしく暮らすための学びを充実させること自体はとても大切なことだと思うが、ここで言われている中身を表すのに、「誰もが参加しやすい学びの機会の提供」の部分はイメージが湧くが、「誰もが自分らしく暮らす」と表現すると、やや学習にアクセスするのが困難な方の学習支援というエッセンスの部分が見えづらくなるのではないかと感じた。
- ・ 利用者といわゆる施設提供者、区の立場というところが、それぞれに資源的にも限度がある中で、この策定会議の中では、基本的に学ぶことが目標で、そのためにどうしたら良いのか、機会をできるだけ提供しよう、（施設の）使い方については、できるだけ合理的であろうと、がいいという話は、皆さま一致するところだと思う。現実的には色々な問題がある。区民が学習を進めるために、こういうことを改善していただきたいという窓口があれば、その中で相互理解をしていくことで解決できる問題だと思う。区としては、いわゆる共助、公助の中で、できるだけ機会を提供していくという状況だと思うので、（生涯）学習センターというのは、そのような（相談）窓口にもなるのか。

【事務局】

- ・ 生涯学習センターは、現状区民が生涯学習の情報を得る場所。常駐職員は

いないが、相談会を実施している。機能のあり方については、検討が必要と考えている。

【委員】

- ・ 生涯学習センターについて「区内全域に渡る人材や施設のコーディネート及び活動」を行うとあるので、（区民が学習を進めるためにこういうことを改善してほしいといった）相談などもできるのかと捉えられるので、そういう機能もあるのか。

【事務局】

- ・ （地域力推進部長）施設の使いやすさについての御意見については、御意見を受けた施設で対応することが基本である。ただ、生涯学習センターで、生総合相談のような機能を果たすべきかどうか、検討していきたい。

【委員】

- ・ 例えばスポーツを振興しようという立場の人が、スポーツの施設の管理に関わっていないと何のためのスポーツ施設なのかわからない。施設管理者は施設のことしか考えてないので、利用者が言わんとしていることが通じない。

【事務局】

- ・ （地域力推進部長）それぞれの施設で苦情を受けた場合、御意見を受けた施設で対応することが基本であるが、施設だけで解決が困難な場合には、それらの施設を統括する主管課で集約して解決する仕組みになっている。生涯学習センターについては、生涯学習に関する様々な相談を受けて、庁内の関係部署につないでいくという機能を含め、そのあり方を今後検討していく。

【委員】

- ・ コーディネートという時に、利用者と交流しながら、区民と施設の所管課などをつなぎ、一緒の目的で動けるコーディネーターが必要。

【会長】

- ・ コーディネートは非常に重要で、キーワードだと思うが、十分な実践や研修などの積み重ねが十分できていない。多分、他の自治体でも課題だと思うが、大田区らしいコーディネートの専門性の確立ということ自体が、こ

の計画の一つの中身になるのではないかと、今の議論を聞いていて感じた。コーディネートは、すぐにできるかのように思われるが、実際には、利用者の背景までじっくり聞き、つなぐべき場所につなぐ、一緒に動いてくれる、そういったコーディネートのあり方についても、実践的に検討していくというように、計画に書かれるべきではないかと感じている。この一連の議論について、今後事務局において検討いただきたい。

【委員】

- ・ 現状、生涯学習センターは、消費者生活センターの2階にあるものことだとすると、区民が活動するための情報提供をしている場所である。計画に書いてある生涯学習センターは立派なものをイメージするが、現状はそうではない。実際に生涯学習に関する相談をしようとしたら、本庁舎6階の生涯学習担当のところへ行けば、専門の人がいて、話ができる。これからどういう形になっていくかわからないが、現状はそういう形である。
- ・ この計画について、全体的には良いと思うが、保護者以外の一般の大人と子どもの関係、子どもと高齢者とかの関わりについて記載がない。子どもの学習支援を20年近くやってきた経験から言うと、子どもは自分の保護者、学校の先生と違う一般の大人に自分の言っていることを聞いてもらえると非常に満足する。子どもに社会性を身に付けさせるためには、子どもと大人の話し合いの場を提供することが非常に重要だと思う。地域で子どもと大人、高齢者との話し合いの場が、たくさん行われてほしいと思った。計画にこのような視点を入れていただいたほうが良いと感じた。

【会長】

- ・ その点、非常に重要だと思う。例えば都市計画系のまちづくりで、子どもが主体的に企画から参加するという取組がある。子どもを主体者として扱って、意見を聞いて企画していくという、非常に重要なことなので、そういう方向で記述できればお願いしたい。

【委員】

- ・ リーダー講習会というものがある。5年、6年生の中からリーダー講習会への参加者を募集して、中高生、大学生が中心となって企画、運営、進行をするという、子どもを育てていく機会。中高生、大学生にも企画性とい

ったものが育まれて、生涯学習の最たるものではないかと感じている。

- ・ リーダー講習会で育った人たちが、例えば区の生涯学習の非常勤として非常に良い働きをしている事例をたくさん見ており、素晴らしいと思っている。先ほど申し上げたのは、そういう大それたものでなくても、自治会・町会、生涯学習の団体が大人と子どもの交流の場を企画したときに、区が支援することで、そのような場が地域にたくさんできると（地域が）変わってくるのではないかと感じて発言した。

【会長】

- ・ 具体的な例もいただいたので、じっくり検討いただきたい。
- ・ 他に御意見がなければ、次の議題に移る。

7 議題3 重点的取組

【会長】

- ・ 議題3について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ （素案「重点的取組」に基づき説明）

【会長】

- ・ 重点的取組の内容について、ご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。

【委員】

- ・ 重点的取組について「学びとつながりの循環の創出」、「ICTを活用した学びの環境整備」、「地域の学びを支える施設や事業の拡充」の三つとしたのが、わかりやすいまとめ方となっている。これから区の施設は、様々な機能が融合していくと思うので、この「学びとつながりの循環」という言葉がとても良いと思った。スポーツをしている人に文化的な活動もしてもらい、文化的な活動をしている人にもう少しスポーツに興味をもってもらい、そういった学びのつながり、循環が創出されると良いと思う。

【事務局】

- ・ （地域力推進部長）大田区では、地域ごとに複合施設の整備を進めていく。来年5月に新蒲田一丁目に複合施設ができるが、施設内の色々な機能の連携とともに、地域との連携を創出していきたいと考えている。機能を横串

にするキーワードを「学び」としており、このような複合施設の整備も重点的取組として位置づけられるのではと思うので、検討したい。

【会長】

- ・ 重点的取組に入れられるのであれば、新蒲田一丁目の複合施設での生涯学習を基軸としたコーディネート機能について非常に期待している。どのくらい機能できるか未知数だが、施設が稼働を始めて、どのように実際の積み重ねができるかということを非常に楽しみにしている。この計画もそのように走りながら熟していく計画なのでは、と感じている。
- ・ この議題について、他に御意見はあるか。

【副会長】

- ・ 活発な議論の中で、インフラの問題、施設の不足という話とコミュニケーションの問題が混在していた。施設の数の問題、増設するという議論であれば、別の会議で検討しないといけない。コーディネートについても、事務局からは即答ができないと思うが、本日の意見を受けて、検討を進めていただきたい。
- ・ 地域力を推進するために、生涯学習を手段としてつなげていくための会議だと思うので、英知を絞って、協力しながらつながりを持っていくということが大切だと思う。

【会長】

- ・ 重点的取組について、他に御意見はあるか。

【委員】

- ・ 求められる場に適切な人材を紹介するコーディネート機能の強化とあるが、現状はどうなっているか。

【事務局】

- ・ 重点的取組として、相談・コーディネート機能の充実とあるが、これはこの計画策定前から、区の計画の中でそれらを担う人材育成に取り組んできた。人材育成事業を受けた方々に相談員として関わっていただいている。

【委員】

- ・ 人材バンクがあるが、マッチングが成立しないことが多いと聞いている。先ほどコーディネートについて話があったが、コーディネートするとは、

紹介する方のやりやすさを優先してはいけない。あくまで求めている人のニーズに寄り添う必要がある。とても大変だが、ここに充実とあるので、フォローしてやっていただければ、うまくいくのではないかと感じた。

- ・（仮称）新大田区生涯学習推進計画という名称だが、スポーツが含まれるということがわかりづらい。タイトルを工夫して、区民にわかりやすいものとしてほしい。

【会長】

- ・ 個人的な意見だが、ICTも重要だと思う。コロナ禍で地域に浸透していると思う。これを足がかりに進めていけると良い。
- ・ コーディネート機能については、教育分野ではスクールコーディネーター、福祉分野では生活支援コーディネーターが活動しており、同じような動きをしている。相談に来た人が、本当は何を課題としているのかということをしちんと聞き取って、しかるべきところにつなげていく、という実践が大田区でブラッシュアップされていく、そういう計画として非常に期待している。

8 議題4 計画の指標について

【会長】

- ・ 議題4について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・（「計画の指標」に基づき説明）

【会長】

- ・ 計画の指標についてご意見、質問があったらお願いしたい。
- ・ アウトカム指標とアウトプット指標がある。何人来ましたというのがアウトプットで、100人来たからどういう成果があったのか、というのがアウトカム、成果指標ということになる。成果指標が好ましいとされている。これら指標が適切かどうか、基本目標ごとに指標を立てられているが、目標に対応しているかどうか、その辺りについて御意見をいただきたい。

【委員】

- ・ 指標に対して、直近値を見ると、令和3年度に行った区民アンケート調査、団体調査の結果が示されているが、この指標を図るのはこの計画終了時と

なるのか。

【事務局】

- ・ 区で毎年実施している区民意識調査（区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査）の項目に、これらの指標を測る質問を入れることとする。

【会長】

- ・ 今年実施したアンケートの結果が直近値として比較対象となり、指標を測る数値となるという点で、計画期間が3年となっていることが気になっている。3年で差ができるのだろうかという。特にコーディネート機能については、これから実験するような段階なので、計画期間が3年で適切なのかという感じを自分も持っている。

【委員】

- ・ 先ほどの質問に続けて意見がある。今、会長がおっしゃったように、一つは生涯学習、教育事業は、基本的に取り組みを行ってから成果が出るまで、少し時間がかかるというのが前提にある。この計画はもともと3年間で設定されていて、どの段階でこの指標に関するアンケートを反映させるのかということはあるが、3年間の計画で評価するのは、やや短いというように感じる。
- ・ また、指標としてアンケート調査結果の数値が多いが、担当課の努力が見えづらいと思われる。実績値がもう少し入っても良いと思う。基本目標3の指標は、生涯学習相談件数という実績値が置かれているが、それぞれの基本目標ごとにアンケート調査結果と実績値という組み合わせが考えられるのではないかと思った。
- ・ 生涯学習相談件数のところで、生涯学習相談会等でサークル・講座・イベント等の紹介をした件数とあるが、これには通常の相談も入っているか。
- ・ また、計画期間3年となると、実際に評価をする前に次の計画の策定準備に入らなければいけなくなるのではないか、実務的に非常にサイクルが短く、落ち着いて生涯学習を推進する体制になるのかと感じる。単身で暮らしている方が多い中で、学びとつながりをどう作っていくのかという中で、生涯学習の意味合いがとて高くなっていると思うので、きちんとスパンを持ってやっていったほうが良いと強く思っている。

【会長】

- ・ 最初の質問について、事務局からお願いしたい。

【事務局】

- ・ 相談件数には、漠然とした相談も含めている。大田区に越してきて何かつながりを作りたい、という相談も日常的にあり、日常の電話、窓口での相談も含めている。

【会長】

- ・ 先ほど話が出たコーディネートのような話が関連すると、件数をカウントするのが難しくなってくる。単なる井戸端会議をやっただけのような場合でも、実はそこに非常に重要なコーディネートが隠されている場合がある。こういうのを意見と数えるかどうか、悩ましいところがある。実践的に解決していくほかない。

【委員】

- ・ 目標と書いてあるところに、右肩上がりの矢印でこれもそのまま計画に掲載されるのか。計画期間を延ばして、3年が5年になると上がっていくということになるが、ずっとこれが続いていくと最後は100になってしまうのか、ということに見える。会長がおっしゃったように、数字で出る指標は、一定程度上昇は期待できるが、成果指標として、こうなってほしいということを数値だけではなくわかりやすく表現したほうが良い。計画期間については、5年のほうが良いと思う。

【会長】

- ・ こういう指標で定性的な指標もありと考えられるか。定性的なものや定量的な指標が並んでいても良いと思うが、いかがか。

【委員】

- ・ 数字を出すと、変化を示しやすくなるが、それを出すことでもととの意味合いが見えなくなることもある。言葉でここからこう変わったという定性的な表現もどこかにあったほうが良いかと思う。
- ・ なかなか指標として定性的なものを立てるのは簡単ではないと思うが、先ほどあったように、例えば青少対で活動していた子どもたちが今度はサポートする側に回って、地域の担い手になっていくという長い期間を経て、

学びの成果やつながりが地域力につながっていくという、こういう姿を描いているわけで、それをどこかで確認したり評価できたりするようなことが必要だということを、数字で表せる指標だけでこの計画が評価されるのではないことを、どこかに文言として入れておくのは重要だと感じる。

【事務局】

- ・（地域力推進部長）それぞれの基本目標に対する指標は、一つの物差し、目安でしかない。実際には、それぞれの基本目標に目指す姿が定性的に書かれてあるので、進行管理の中で目指す姿にどれだけ近づいたかというのを定性的に書き込む必要があると考えている。このため、これは一つの代表指標であり、物差しであるという記載を入れることを検討したい。

【委員】

- ・ 素案5ページで、大田区の1世帯あたりの人数が、2人を切っている。資料を見て驚いているが、2人を切っているという状況だと今後の生涯学習の内容についても、変化をしていかなければいけないのではないかと。また、オンラインでの生涯学習経験がある方が、40.8%と多いと思った。家に引きこもってやっている方が多いのではないかと。どのようなことをオンラインで学んだのかというのを補足として知りたい。

【会長】

- ・ ほとんどの自治体で一世帯あたりの人数が2人を切っている。それだけ危機にあるということで、自治会町会の加入率が下がっているのもそれがかなり起因していると思う。それを前提に計画が練られて、ここに出てきているということで、この計画書全体がそのような趣旨であると思う。

【事務局】

- ・ 先ほどのオンラインでの生涯学習経験有無についてだが、区民アンケートでは学習の内容については、調査していない。

【副会長】

- ・ 実際これだけ経験のある方々で検討を進めてきたが、実際子どもの話をしましょう、といったときに、実際は子どもの話を聞かないと難しい。それだけ、子どもの現状も変わってきている。
- ・ デジタルツールが普及した昨今は、Z世代というデジタルネイティブの子

どもたちがおり、全く違う感覚を持っている。我々の経験でこうだったという成功体験だけでは、難しい。

- ・ 高度成長の頃は、終身雇用で、社内運動会などを通して親子のような形で、企業が社会的なつながりを担っていたが、現在は、自己責任の社会でつながりが希薄になってしまった。最後の砦が地域力であり、地域力を高めるための学びであると思う。生涯学習を充実させるために、計画期間も延ばし、見直しながらやっていけば良いと思う。

【会長】

- ・ 最後に確認だが、この策定会議として計画期間は5年が適当ということによろしいか。

(異議なし)

9 閉会 (傍聴人退室)

【事務局】

- ・ 傍聴人の皆さま、お帰りの際に、資料の返却をお願いします

(傍聴人退出)

以上